

新しい長野都市圏総合都市交通計画（案）について

【概要版】

■ 総合都市交通計画とは

- 総合都市交通計画は、今後の交通施策の方向性を示すもので、都市交通行政を進める上で基本となる交通計画を定めるものです。計画に掲げる交通施策は、今後のまちづくりの方向性である集約型都市構造への転換や、まちづくりと連携した交通に関する取り組みとして策定します。
- 計画立案にあたり、都市圏の交通実態を把握し、将来の交通の姿を予測するため、パーソントリップ調査（人の動きを把握する調査）を実施しました。
- 調査結果をもとに将来を予測し、総合都市交通計画を検討しました。また、調査結果は、都市計画マスタープラン、道路網計画・都市計画道路網の見直し、公共交通網の計画検討などに幅広く活用します。

ホームページ 調査について



【長野都市圏】

■ パーソントリップ調査とは

- パーソントリップ調査とは、人（パーソン）の移動（トリップ）を把握する調査であり、ある1日の移動について、移動の目的や移動の手段（鉄道、バス、自動車、徒歩や自転車など）を把握しました。
- 調査は、平成28年10～12月にかけて実施しました。都市圏の約24万世帯のうち約4万9千世帯の方を対象にアンケート票を配布し、約1万8千世帯の方から回答をいただきました。（回収率37.8%）

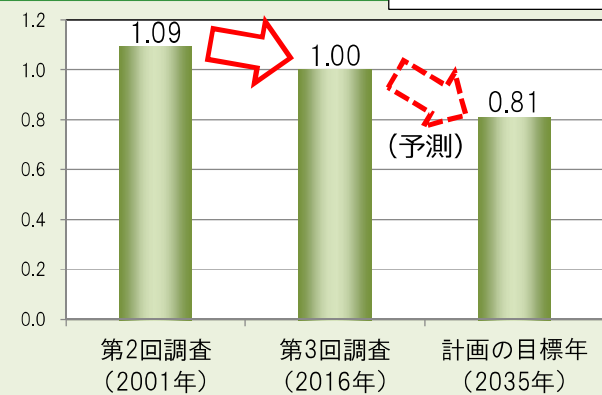
ホームページ 調査について

■ パーソントリップ調査結果から

【交通量の減少】

- 都市圏の交通量は、人口減少傾向を反映し、前回調査（2001年）から約1割減少しました。
- 今後も減少が予想され、およそ20年後の2035年には約2割減少すると予測されています。

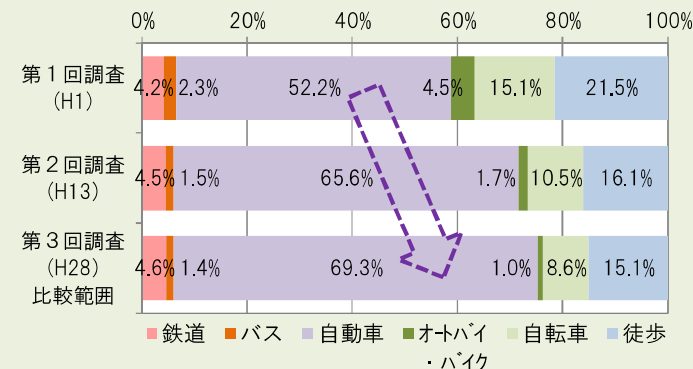
※交通量は、第3回調査を1として比率で表現した。第2回調査と第3回調査の比較は、第2回調査の範囲で比較。計画の目標年との比較は、第3回調査の対象範囲で比較。



ホームページ 調査結果

【自動車利用割合の増加】

- 移動手段は、自動車の利用割合が増加する一方で、徒歩や自転車の利用が相対的に減少しました。
- 鉄道やバスといった公共交通機関の利用割合はほぼ横ばいであり、交通量全体が減少していることを踏まえると、利用者数は減少しています。



■ 新たな長野都市圏総合都市交通計画（案）

【都市圏の課題】

本編 1.1

- 今後は、人口減少に伴い交通量は減少しますが自動車利用の割合は微増します。また、通勤交通の割合は減少しますが、引き続き朝晩の混雑が課題です。
- 公共交通の利用者が減少するため、公共交通サービスの維持が困難になる可能性があります。また、高齢化がより一層進み、車を利用できない高齢者の移動手段の確保が課題です。
- 都市圏には観光資源も多く、多数の観光客や来街者に対し、引き続き広域交通との連携や域内二次交通の確保が課題です。

【都市圏の将来像と新たな交通計画の考え方】

本編 1.2、2.1

- 都市圏の将来像は、今後の人口減少と少子高齢化を踏まえ、拠点を中心とした集約を目指す人口配置を基本とし、拠点間の連携を高めるネットワークからなる将来都市像を目指すこととします。

【総合都市交通計画の考え方】

「交通ネットワークの充実と公共交通の利用や手段転換を促す」ことで、人々が安心して暮らし、移動でき、観光客も楽しみやすい都市圏をつくる。

【新たな交通計画の3つの柱】

本編 2.1

- 新たな交通計画は、交通ネットワークの充実と公共交通の利用や手段転換を促すことを共通事項とし、次の3つの柱を切り口として組み立てました。

○資産（ストック）を活用し、拠点とネットワークからなるまちへ変える

- ・市町間、拠点間ネットワーク強化
- ・長野市中心部交通の充実
- ・まちなか、拠点内交通の強化

○人々の暮らしの足をまもる、支えあう

- ・公共交通をまもる、支えあう
- ・冬季の暮らしをまもる、支えあう
- ・高齢者の暮らしをまもる、支えあう

○観光ネットワークをつくる

- ・観光交通ネットワークの充実
- ・観光交通サービスの充実

資産（ストック）を活用し、拠点とネットワークからなるまちへ変える

本編 2.2

考え方

- 都市圏全体としての拠点づくりや拠点間の結びつきを支えるため、公共交通網や道路網といった既存の「資産（ストック）」を活用し、拠点とネットワークからなるまちへ変える」ための施策展開を行います。また、拠点とネットワークからなるまちへ変えることで、持続可能で暮らしやすい環境を整備します。

施策の方針

- 市町間、拠点間ネットワーク強化
 - ・都市圏が保有する資産（ストック）を有効活用します。
 - ・道路網のみならず公共交通網を強化します。
 - ・ボトルネックとなる河川や鉄道横断部の機能を強化します。
 - ・リダンダンシー（多重性）を確保します。
- 長野市中心部交通の充実
 - ・歩行者中心のまちづくりを推進し、都市圏の中心拠点としての機能強化に取り組めます。
- まちなか、拠点内交通の強化
 - ・短距離移動の支援や結節点の機能強化を図ります。
 - ・バリアフリーやユニバーサルデザインによる環境づくりに取り組めます。

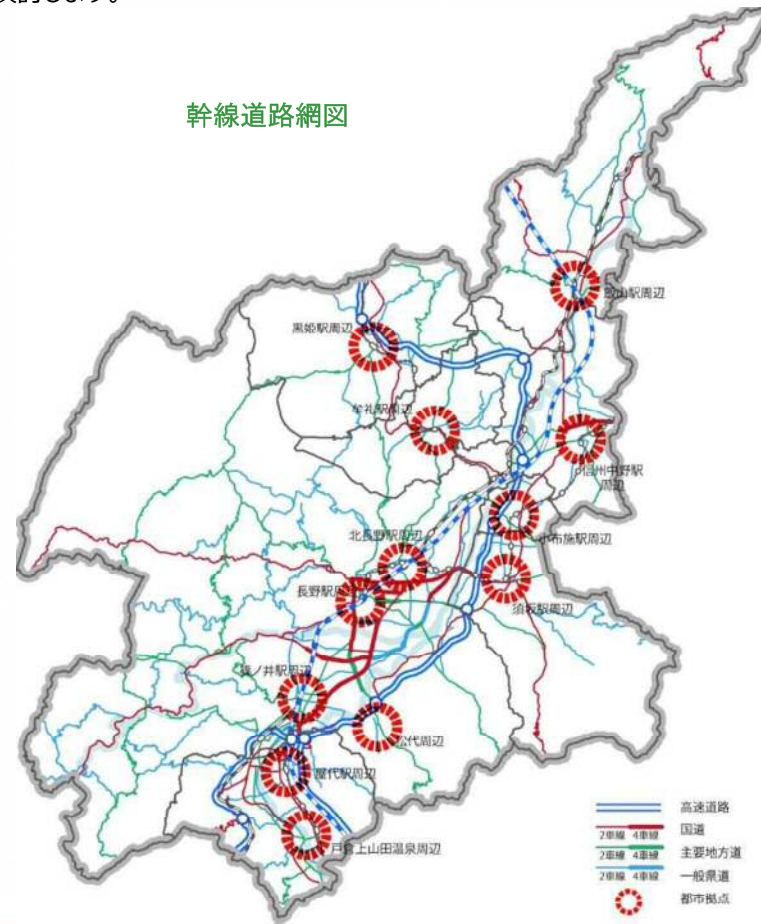
主要交通施策

- 市町間、拠点間のネットワーク強化、幹線道路の整備
 - ・拠点間の連携強化に資する道路整備
 - ・構想道路の整備検討
- 河川、鉄道横断部の機能強化
 - ・丹波島橋の機能強化
 - ・パークアンドライドの推進
- 歩行者中心のみちづくり（長野市中心部交通の充実）
 - ・歩行者中心のみちづくりの推進
 - ・短距離移動の支援
 - ・長野駅交通拠点機能強化

【主要交通施策の例】

- 市町間や、拠点間を結ぶ幹線道路網の整備を行います。
- 資産（ストック）を活用し交通の時間・空間的分散のため、案内誘導や情報提供の高度化を図ります。
- 沿道の発生集中交通量が多い路線は駐車場出入口の工夫や並行道路の活用、また、自動車利用そのものを抑制するモビリティマネジメントなどの施策に取り組みます。
- 市町間、拠点間ネットワーク強化に資する、構想道路の整備必要性について検討します。

幹線道路網図



その他個別の交通施策

- 相乗り促進
 - ・相乗り促進の検討
- 幹線道路の整備
 - ・幹線道路の整備、事業推進
 - ・都市計画道路の見直し
 - ・幹線バスルートの検討（市町を横断するもの）
- まちなか、拠点内交通の強化
 - ・短距離移動の支援
 - ・駅、駐車場等拠点強化
 - ・駅、拠点、主要施設間のバリアフリー、ユニバーサルデザイン
- 賑わいづくり
 - ・中心市街地活性化
 - ・交通結節機能の強化
- リダンダンシーの確保
 - ・構想道路の整備検討
 - ・スマートインターチェンジの整備、検討
- 幹線公共交通の機能強化
 - ・立地適正化計画の検討、推進
 - ・鉄道、バスのダイヤ整合
 - ・公共交通の料金施策の検討
 - ・始終発バスの延長、利用促進

【主要交通施策の例】

- 拠点性の高い市街地形成に向け、歩いて楽しい歩行空間の充実を図ります。
- 長野市の中心市街地では、中央通りの歩行者優先道路化の推進の検討や、街並み環境整備事業による道路空間の高質化などに取り組み、道路・交通整備や歩行者空間の充実を図ります。また、歩行者の回遊性向上に寄与する駐車場の配置検討を行います。
- 小布施町の国道 403 号線沿線など長野市中心部以外のまちなかについても、歩いて楽しい歩行空間の充実や、歩いて暮らせるまちづくりと一体となった道路整備を進めます。

長野市中心部の取り組み



人々の暮らしの足をまもる、支えあう

本編 2.3

考え方

- 都市圏の新たな交通計画では、「人々の暮らしの足をまもる」ことを考えた施策展開を行います。また、暮らしの足の一つである公共交通が確保されることで、移動手段の選択肢が増え安心感が高まり、暮らしの質の向上が期待できるような施策展開を行います。なお、施策の展開にあたっては、財政制約や施策展開の効率性を考え、互いに協力し「支えあう」ことを基本に施策展開を行います。

施策の方針

●公共交通をまもる、支え合う

- ・公共交通ネットワークを使いやすく強化し、バス等乗り換えサービスの向上に取り組めます。
- ・主要鉄道駅において、地域のニーズに応じたパークアンドライドの取り組みやバス交通との連携強化に取り組めます。
- ・シェアリングサービスとの連携、新たな公共交通に関する検討、情報提供や経営組織の強化検討に取り組めます。

●冬季の暮らしをまもる、支え合う

- ・冬季に強い道づくりを行います。
- ・除雪に関する情報提供や協働による除雪に取り組めます。

●高齢者の暮らしをまもる、支え合う

- ・福祉交通との連携や運賃補助による支援を行います。
- ・送迎や相乗りなどの情報提供やPRに取り組めます。
- ・バリアフリーやユニバーサルデザインによる施設整備を図ります。
- ・分かりやすい情報提供に取り組めます。

主要交通施策

■公共交通ネットワークの機能強化

- ・買物、通院目的の路線整備 ・ダイヤの工夫
- ・フィーダー路線、小型バス、乗合タクシーによるサービス提供、タクシーの活用
- ・バス運行頻度向上、デマンド運行
- ・ミックスユース（貨客混載、観光路線と生活路線の効率的連携）
- ・利用しやすい鉄道運行頻度、ダイヤ、料金
- ・安全性向上に資する設備の整備

■バス乗り換えサービスの向上

- ・まちなか、郊外の乗り換え拠点の整備

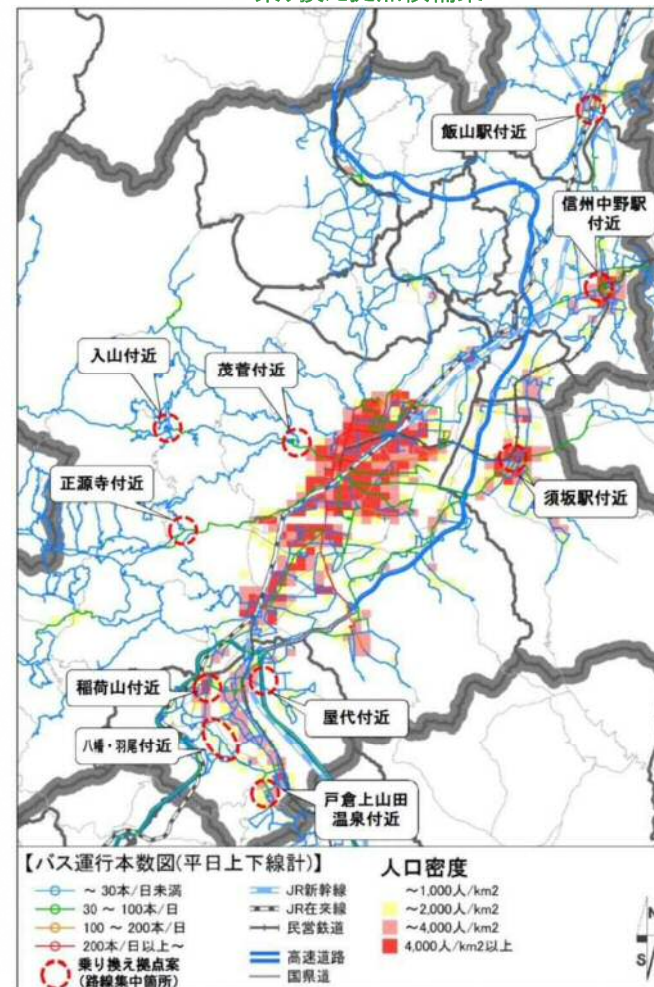
■主要鉄道駅の機能強化

- ・主要鉄道駅の施設改善、地域のニーズに応じた鉄道駅パークアンドライド

【主要交通施策の例】

- 公共交通ネットワークは、地域の移動を担う支線バスやデマンド交通と、地域の拠点から中心市街地までを担う幹線バスによって構成し、効率的な運行を図ります。
- 乗換拠点整備、乗り換え利便性向上の対象は、路線バスの乗り換えや集約箇所、拠点となる公共施設や交通施設が立地しているなどを検討し検討します。

バス乗り換え拠点候補案



その他個別の交通施策

■シェアリング

- ・予約システム（ソフト）、車両（ハード）等の共有化の検討
- ・経営組織の統合化、交通連合の検討
- ・地域通貨や共通運賃制度の検討
- ・コミュニティサイクルの検討、公共交通と連携したカーシェアリングの検討
- ・短距離交通手段のシェアリングと公共交通の連携に関する検討

■新たな公共交通

- ・公共交通網の適切な設定
- ・公共交通ポイント、環境ポイントなどのインセンティブ付与
- ・自動運転のモデル的な取り組みへの積極的な参画
- ・新たな短距離公共交通の研究
- ・相乗り促進サービスや送迎サービスなどの検討

■情報提供

- ・運行情報の提供
- ・取り組みに関する情報提供
- 冬季の暮らしをまもる施策
- ・冬季に強い道づくり
- ・除雪に関する情報提供
- ・協働によるバス停除雪、歩道除雪

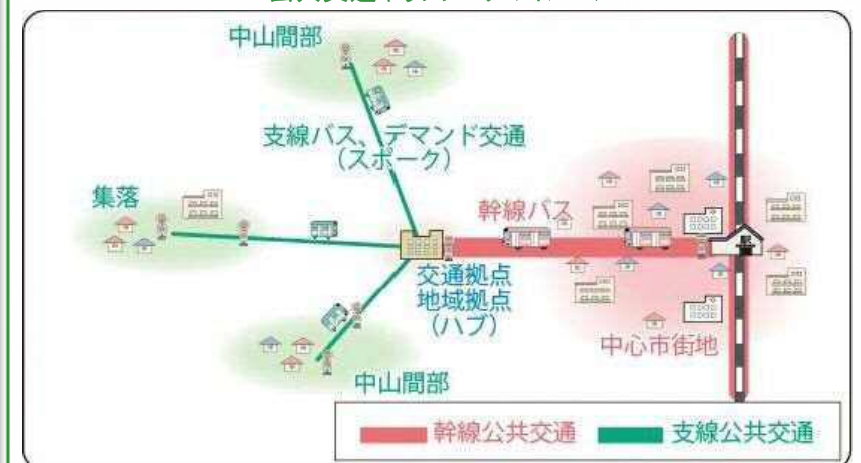
■高齢者の暮らしをまもる施策

- ・福祉交通との連携 ・運賃補助による支援
- ・送迎、相乗りの促進
- ・バリアフリー、ユニバーサルデザインによる施設整備
- ・分かりやすい看板、案内の整備
- ・見通しの良い道路線形による整備

【主要交通施策の例】

- 交通結節点の機能強化、主要鉄道駅の機能強化を図ります。
- 主要鉄道駅の機能強化は、特性に応じてパークアンドライド駐車場の整備や、コミュニティサイクルを検討します。

公共交通ネットワークのイメージ



地域に寄り添う多様な交通サービスの事例

飯綱町 貨客混載バス

- ・路線バスで旅客と貨物を一緒に運ぶ貨客混載バスを実施している（平成29年（2017年）10月）から開始。
- ・利用者が減少するバス路線の維持、収益改善などを目的としている。



資料：飯綱町

観光ネットワークをつくる

本編 2.4

考え方

- 都市圏には、善光寺をはじめとした観光資源が点在しており、訪日外国人も多い都市圏の新たな交通計画では、都市圏の特徴の一つである観光に着目し、公共交通を中心とした「観光ネットワークをつくる」ための施策展開を行います。

施策の方針

- **観光交通ネットワークの充実**
 - ・ニーズに応じた2次交通の充実や、観光行動や観光商品と合わせた2次交通など、観光交通ネットワークの充実を図ります。
 - ・観光ネットワークの充実は、観光交通を支えるネットワークの充実や構想道路の検討、2次交通を担う鉄道やバスの機能強化のほか、観光交通に関する情報提供や情報発信を含む施策に取り組みます。
- **観光交通サービスの充実**
 - ・サイクリングロードやサイクリングルートの充実を図るほか、サイクルレインの研究を行い、「観光交通サービスの充実」を図ります。
 - ・観光情報や公共交通の多言語対応など、多様な情報提供手法について検討します。
 - ・観光拠点を連絡するバス運行や、観光地内やまちなかでの移動性の充実を図ります。

主要交通施策

■ 観光交通ネットワークの充実

- ・ニーズに応じた2次交通の充実、観光商品の開発と連携した2次交通の充実
- ・観光2次交通の情報提供

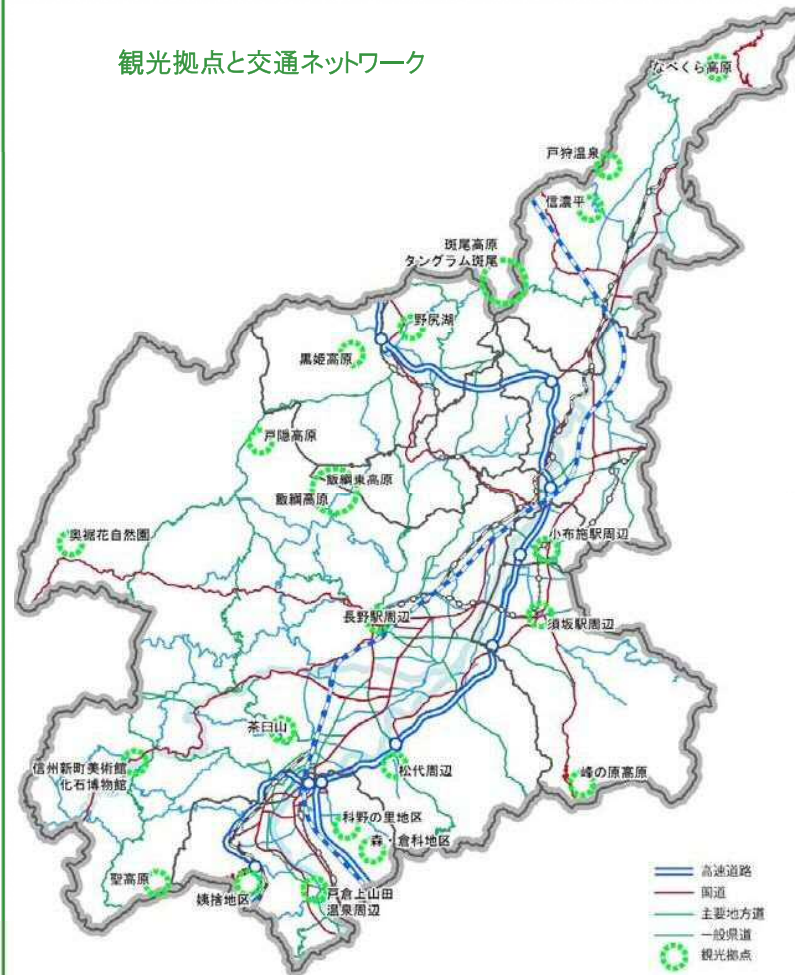
■ 観光交通の充実

- ・サイクリングロード、サイクリングルートの充実
- ・サイクルレインの研究
- ・観光情報の多言語対応、公共交通の多言語対応、多様な情報提供手法の検討

【主要交通施策の例】

- 観光拠点を連絡する幹線道路網整備、2次交通を担う鉄道やバスの機能強化を図ります。
- 観光行動や観光商品と合わせた2次交通の充実を図ります。
- 観光地内やまちなかでの移動性の充実を図ります。
- 観光交通に関する情報提供や情報発信を行います。

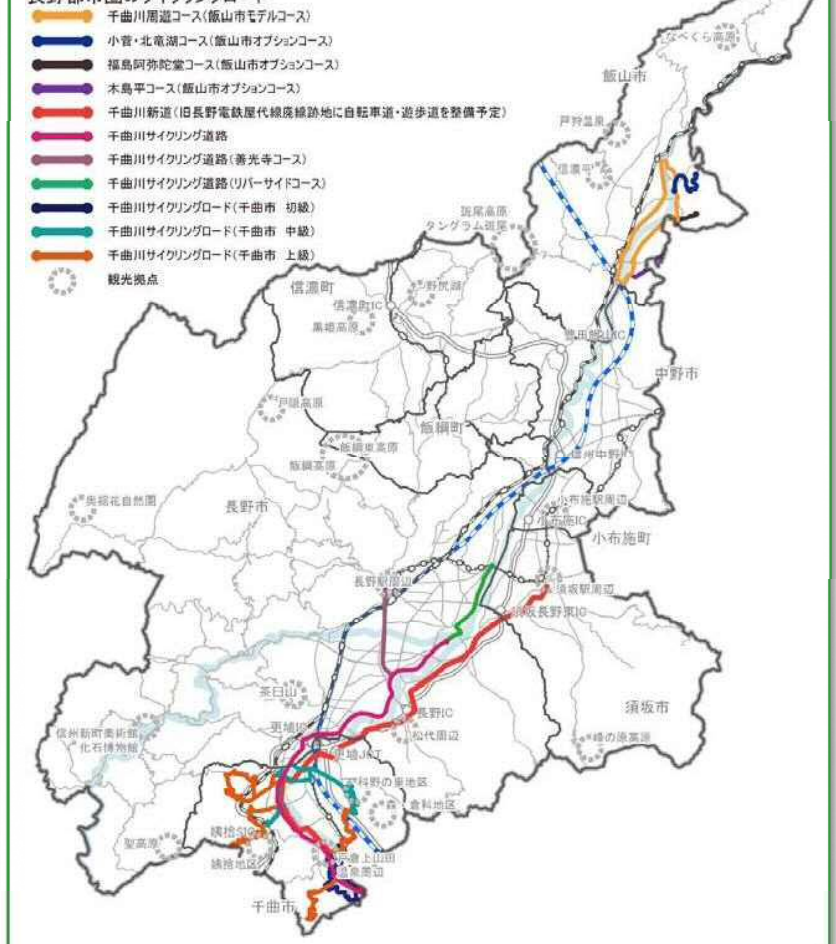
観光拠点と交通ネットワーク



【主要交通施策の例】

- サイクリングルートと鉄道を組み合わせた広域観光ルートの提案に取り組みます。
- サイクルレインの実現に向けた研究を進めます。

長野都市圏のサイクリングロード



長野都市圏のサイクリングロード

その他個別の交通施策

■ 観光交通ネットワークの充実

- ・観光交通を支えるネットワークの形成
- ・観光拠点連携強化に資する構想道路の検討（千曲大橋）
- ・観光バスと生活バスの効率的な連携（重複区間の解消、連携、ミックスユース等）

■ 観光交通サービスの充実

- ・観光拠点を連絡するバス運行
- ・観光地内のバス運行

■ 幹線公共交通の機能強化（再掲）

- ・鉄道、バスのダイヤ整合
- ・公共交通の料金施策の検討
- ・始発バスの延長、利用促進